

校外組織と学校における野外観察パートナーシップの構築

ジオ×エデュケーションと都立武蔵高等学校附属中学校における野外観察の企画から実践

○北山智暁^A, 飯田和也^B, 小森次郎^C, 宮里康郎^D, 岩淵寛^E, 小松原禎之^E
Kitayama Tomoaki, Iida Kazuya, Komori Jiro, Miyazato Yasuro, Iwabuchi Hiroshi, Komatsubara Yoshiyuki
国立研究開発法人 海洋研究開発機構^A, 駒場東邦中学校・高等学校^B, 帝京平成大学^C,
一橋高校通信制^D, 都立武蔵高等学校附属中学校^E

【キーワード】 中学校理科、野外観察、校外組織、体験学習、能動学習、

1 はじめに

自然に対する理解を深め創造性や知的好奇心の育成などにもつながるとされる野外観察授業が、近年大幅に減少している。その原因として、学校での準備実施のための時間や予算的措置の困難さ、地学を専門とする教員が毎年減少していることなどが指摘されており、抜本的な改善のためには、学校のみならず校外のリソースを最大限活用する必要があると考えている。そこで、ジオ×エデュケーション^{*1}では、野外観察授業を実施することが容易ではない学校に対し、必要な知識や教材、人材を提供することで野外観察授業の実施を支援する取り組み「野外観察パートナーシップ」を始めた。

本発表では、ジオ×エデュケーションによる都立武蔵高等学校附属中学校での野外観察授業の企画から実践までを報告する。

^{*1} ジオ×エデュケーション (Geo×Education)
「野外観察授業」を通して「地球を正しく知る」ことを目標に、地球科学を専門とする研究者、技術者、教員、大学院生が集まり、野外観察授業の実施をサポートする非営利団体として2012年4月から活動を始める。

2 野外観察授業の企画

野外観察授業は専門的な知識に加え、校内調整等の様々な過程を経て実現される。一般的には、対象学年の選定、野外観察テーマの設定、観察地選定、指導教材(パンフレット等)の準備、学習指導案(1日の観察プラン等)の作成、インストラクターの確保、交通手段の準備、校内調整、保護者への説明などが必要となる。しかし、これらの準備を通常の校内業務に加えて行うことは大変な労力を要し、実施を難しくする要因となっている。

そこで、ジオ×エデュケーションでは、校外組織のリソースを有効活用することで校内負担を減らし、野外観察授業を実施しやすくする仕組みを構築するため、都立武蔵高等学校附属

中学校にご協力いただき、野外観察授業の企画から実践までを校外組織がサポートする仕組み「野外観察パートナーシップ」を構築し、その効果を検証することとした。

3 野外観察授業の実践

観察テーマや観察地は、ジオ×エデュケーションがパッケージ化したものを校内の履修状況等に合わせ学校が選択する形としたことで、教員負担のかなりの軽減が可能となった。また、自主参加型としたことで、校内の年間スケジュールや予算などの縛りを受けず柔軟な対応が可能となることがわかった。都立武蔵高等学校附属中学校では、2012年の開始からのべ250名を超える生徒が本企画に参加している。自主参加型にも関わらず対象学年の3割以上が参加を希望し、野外観察授業に対する生徒の関心の高さがうかがえる結果となった。このことから、学校には野外観察授業に対する潜在的ニーズが存在すると考えられる。

4 まとめ

校外組織と学校がパートナーシップを組み、校外組織の持つリソースを活用することで実施することが容易でなかった野外観察授業を継続して実施できることがわかった。この形は、今後の野外観察授業における新たなモデルケースとなると考えている。

参考

- 1) 北山 智暁他 (2013) 野外観察授業の企画・実施に向けた新たな取り組み JPGU Meeting 2013 G04-P07
- 2) 北山 智暁他 (2014) 野外観察授業の効率化に向けた取り組み JPGU Meeting 2014 G02-P07